

序

よくある症状・疾患につき、診療ガイドラインに何が書かれているのか手っ取り早く知りたい、診療ガイドライン以外のエビデンスや海外の状況、現場のリアルを知りたい、というご要望にお応えする本が完成しました！

もともとの企画は、われわれ編者3名が家庭医療（総合診療）後期研修を始めたときに「慢性疾患診療ガイドラインプロジェクト」としてスタートしました。初期研修では急性期病院での救急外来や病棟診療は行うものの、慢性疾患などの外来診療をトレーニングする機会はほとんどありません。結果、後期研修を開始した当初は診療所で慢性疾患をどのように診たらよいか全くわかりませんでした。そこで同期3名（わが国における家庭医療後期研修プログラム1期生）が中心となり、国内外の診療ガイドラインの重要項目をA4用紙2枚程度にまとめ、指導医の確認を経て共有するというプロジェクトが立ち上がりました。その後縁あって、「総合診療医が押さえておくべき診療ガイドラインのポイントを総合診療の視点でコンパクトにまとめ、日常診療に活かしていただく」ことを目的に、総合診療雑誌「Gノート」の創刊号（2014年4月号）から連載がスタートしました。おかげさまで多くの読者からご好評をいただき、新規テーマを大幅に加えてこのたび単行本化の運びとなりました。

以上のような経緯から、主な読者層は、外来での診療経験の少ない総合診療後期研修医、あるいは主に病院で専門診療をされたのち新規開業される先生を想定しています。さらには、各項目での「診断のアプローチ」「治療のアプローチ」にて頻度の高い症状・疾患の診療ガイドラインの概要を手早く把握でき、「ビヨンド・ザ・ガイドライン」では診療ガイドラインを超えたエビデンスや現場のパールを参照できるため、十分な経験のある総合診療医や一般内科医にもお役に立てる書籍であると確信しております。本書籍を診察室に置いていただき、必要時にご参照いただくことに加え、患者さんと一緒に本書を見ながら情報を共有いただいたうえで「診療ガイドラインを超えたりアルな診療」を患者さんとともに行っていただく一助になれば、執筆者・編者一同望外の喜びでございます。

最後になりましたが、国内外の診療ガイドラインを改めて参照し、それらを超えたエビデンスや現場のリアルをご執筆いただくという無理なお願いにもかかわらず快く引き受けてくださった執筆者の皆様、連載・書籍を通じて根気強くそして温かくサポートしていただいた松島夏苗様、吉川竜文様はじめ羊土社のみなさまに心より御礼申し上げます。

2017年2月

横林賢一・渡邊隆将・齋木啓子